

うつのみやまちづくり市民会議 第1回合同会議 議事録

会議の名称	市民会議（第1回合同会議（第3回全体会） 産業振興分科会）
開催日時	平成18年10月11日（水）午後6時～8時
開催場所	宇都宮市役所 14階 大会議室
出席者	（市民委員）津谷委員長，金枝委員，花田委員，三尾谷委員，佐藤委員 （庁内部会）栃木，小玉，松本，平石，水沼，石原，大根田 （市事務局）
会議内容	・重点課題に関する意見交換 ・提案予定事業に関する意見交換
会議資料	1．重点課題対応シート 2．施策事業提案
発言者	発言内容
市民委員	重点課題を考える際には，宇都宮の強みを出すにはどうしたらいいか，という視点で考えた。旧来の産業分類という視点はあえて持たず，総合的に産業を捉える必要性を主張したい。 重点課題の第1位に，安全・安心な食糧供給を掲げた。いわゆる既存の農業でなく，生産，加工，消費（外食）といった流れを考慮して整備を考える必要がある。地産地消も大切である。
市	役所には部門があるので重点課題を出す時には産業分類による区切りが出るが，立場が違えば産業を総合的に捉えると思う。
市民委員	農村地帯を元気にして，それをまちづくりに生かして，交流をしながら伸ばしていきたいと思う。
市民委員	宇都宮の強みは，環境である。
市	宇都宮のイメージは「おいしいものがありそう」「自然がありそう」というような，観光地に近いものが多い。宇都宮に来てみると意外と都会で良い，という意見が多い。大谷のような観光名所や農村が都市部の近くにあることは宇都宮の魅力である。それをどう合わせて活用していくかが重要だろうと思う。
市民委員	集団営農は良いが，個人の取り組みには限界がある。
市民委員	宇都宮は全国的に知られていない。全体的にレベルアップして，お客さん

	に来ていただいて、町も元気になって、良いところに住んでいると住民が 思えるまちづくりが理想である。
市民委員	宇都宮は餃子が有名だが、外国の小麦粉を使うなど、宇都宮でとれたもの を使っているわけではない。宇都宮で採れたものを地元で消費したい。
市民委員	農家の人と餃子屋が一緒になって考えていくということが、産業全体の視 点である。農業のみだと自己完結的である。
市民委員	そういったことを、行政が主導でやって頂けないか。
市	出会いの場を提供し、コーディネートすることはできる。
市民委員	観光との結びつきという視点で、例えばロマンチック村と農業を結びつけ るなどが考えられる。体験農業などを取り入れて、行政に進めて頂くのが 良いのではないか。 大谷は、陥没してからは人が行かなくなり、店舗も減少した。大谷に観光 客を呼びたいと思う。
市民委員	大谷は自慢できるものだ、という意識は一緒である。あ
市民委員	点を繋げていくことが重要である。ロマンチック村だけでなく、色々な ものを繋げていくべきである。
市民委員	大谷にゆかりのおいしいものを作り、活性化したい。
市民委員	農産物をいかにお菓子や食材にするかが問題である。農家の人に手を上げ てもらい、PR するということも考えられる。
市民委員	例えばまんじゅうコンテストなどをして、市民全体に呼びかけて、表彰を することを検討した。食の匠によって活性化に繋げるというようなことも ある。
市	大谷などに意欲のある人がいることが望ましい。
市	<施策について> 食の安全と安心についてだが、市の組織も農業担当と商業担当がひとつに なり、横の連携も考慮している。農業を核とするアグリメントワークを立 ち上げようとしている。農協や商工会議所も検討のメンバーに加え、組織

	を立ち上げて製品開発ができるように努めている。助成もできるように考えていきたい。 コンクールという提案があったが、市民の方がレシピを考え、企業が新製品を発表できるような場、ということで市の中でも検討している。
市	業者のネットワークと消費者の意見を集める組織があり、市民や消費者が何を求めているかの情報が業者に流れ、マッチングできる仕組みが望ましい。どんな仕組みやどんなサービスがあれば良いのか、どうすれば会費を払っても参加したいと思うのか、市民からアイデアをもらいたいと思っている。
市民委員	そういった目的がきちんとあれば、市民は参加したいと思うのではないかな。私は参加したいと思う。
市民委員	新しい食品を作るとか、新しい料理を作ることは創造的なことである。新しいものが作れば人が集まってくるのではないかな。 市民が持っている潜在的な創造性を引っ張りだしたい。 農協などの組織が中心となるよりも、身近な農家の人が関わった方が良い。
市	ネットワークを作って組織のえらい人が登場して形式的な議論をするのではない場所にしたい。
市民委員	トップダウンよりはボトムアップの方が良い。
市	自分の活動は、人に指摘されて始めて良さに気づくことがある。
市民委員	以前、餃子のコンクールに出たが、その時は古い白菜のつけものが入った餃子が一位だった。それが出来たきっかけは、おばあちゃんからもらった漬物が余ったからだだった。少しのことがきっかけでおいしい商品ができあがる。
市民委員	ネットワークで募集というよりは、コンクールなど、持ち寄りで始めた方がよいのではないかな。組織の長が集まってくるということは、目的に合致しない。
市民委員	意識を持ってコンクールをすることが大切ではないかな。
市	呼びかけ方も重要である。

市民委員	食に限らず色々なコンクールができれば良い。
市民委員	若い、頑張っている集団にも何か託したい。あるいは若い人々の新しい料理、起業、化粧品、衣料などについて意見を収集できるようなものをコンクール等で行いたい。
市民委員	新しい食品開発を進めるなど、支援というのは色々出来るのではないかな。審査員を一般市民にするのはどうか。
市民委員	市民参加型の食育フェアのようなものはどうか。
市民委員	若い世代を担う教育をしてほしい。目線を下げて啓発してもらいたい。
市民委員	市役所や市外でなく、清原や大谷など、これから売り出すべき観光地でやるのが良い。今の若い人たちにも歴史を理解、認識させる。観光、商工、農業を含めたイベントを開催して方向付けをし、その中でネットワークができると良い。
市	現在は工業見学など体験型の学習機会もある。
市民委員	東京の大企業が宇都宮市の産業を発展させていく、ということの展望ではなく、自分たちの力で、農業、商業、工業、を振興していった方が良いのではという視点から、起業を提案した。例えば主婦の起業宇都宮版、ができないか、と思う。起業の表彰などを市としても考えてくれないか。きめ細かいサポートが必要な部類である。
市民委員	コンクールで入賞したプランに賞金を出すと良いのではないかな。
市	宇都宮ベンチャーという施策があり、施設を開設している。創業3年未満の会社を対象とし、成長性や新規性を判断して、入居してもらっている。法人化している企業を対象にしているので、ハードルとしては高い。法人化をして企業発展させて、上場企業になってもらえれば良いと思っている。また、ある程度は税収というカタチで宇都宮に還元してほしい、雇用を確保してほしいという思いからである。 コミュニティビジネスについては手薄ではある。企業支援には色々なやり方があり、例えば投資のファンドをつくるというものもある。県jには産業振興センターもある。 ただ、相談窓口がばらばらなので、ワンストップの仕組みが必要ではと考えている。

市民委員	宇都宮には、足長おじさんのような大物がいないので、寂しく思っている。
市	重点課題 4（若年労働課題）については、厳しい状況になっている。関係機関が市にもあり、職業観を持たせるための社会教育体験学習事業や高校生、大学生のインターンシップを実施している。市では、高校や大学を卒業しても未就職の人については、常用労働者として雇用された場合に雇用保険の適用者に 60 万円の助成をしている。正規雇用者としての定着に向けて努力している。 今年度はフリーターやニートについても取り組んでおり、例えば若年者のセミナーを 2 回実施している。これは就業するきっかけを作ってあげたいという思いからである。セミナーでは仕事の意味や重要性について講演頂いた。また、自立塾を実施し、関係機関と連携してフォローアップしている。11 月には、フリーターやニートについて考えるイベントを県と共同で行った。支援策は色々実施していると思う。 県では親としてどういう対応をしたらいいのかについてのセミナーもしており、宇都宮市は県とも連携している。
市民委員	ぜひ連携してもらいたい。この問題に関しては、税収面や少子化などの点で気がかりである。
市民委員	細かい部分で、市ができることがあると思う。
市	市はできることをしようという姿勢で取り組んでいる。
市民委員	相談所などを、宇都宮の中心部に設置してもらいたい。気楽にいける場所を準備して、ノックさせる試みもしてほしい。
市	県がジョブカフェ事業をしていて、その PR はしている。将来はもっといい場所に設置したいと思っている。
市民委員	ニートなどにとっては敷居が高いのではないか。気軽に行ける場所が良いと思うが、県庁に相談窓口があっても行きづらい。
市	セミナーの内容の中にジョブカフェを盛り込んで実施したい。
市	重点課題 2 の中に、「観光ボランティア組織の形成」、とあるが、今年の 7 月に宇都宮シティガイド協会が立ち上がり、民間が観光案内をするという組織ができた。ロケ誘致に関してもコミッションが立ち上がっており、「キ

市	ャプテン」という野球の映画撮影も行っている。 農業振興課は、農家が経営安定してやっていけるためにどうするかを考えている。高齢化と、職業自給率の低迷を問題視している。 農産品も外国化している。ブランド化についても産地間の競争（国内外）に勝たないと生きていけない。宇都宮産のものを発信しなければならないと考えている。農業は商工業と差が付いている。農家は嫁が来ないなど厳しい状態で、65歳以上の農業従事者が多い。生産振興に力を入れなければならないと考えており、色々な支援制度も出てきている。産地の表示をするなど、食の安全・安心という部分での勝負になってきている。顔の見える農業のPRしていく必要があり、農協などと協力している。 農家の中でも、うまくやっている人はやっている。
市	体験農業も色々実施しているが、プロになろうというところまでは一步隔たりがある。
市民委員	農家としては市はあまり見えず、農協主体である。
市	宇都宮というブランドはあまり前に出ず、栃木県というイメージになってしまう。宇都宮の野菜や産物をアピールできれば、観光や産業においても宇都宮のものは自慢できると思うので、売れるものを作っていきたい。 米の場合は土地が必要であるが、イチゴやトマトは狭い土地で収益を上げられる。とちおとめやニョハウなどがある。宇都宮はナシやトマトは生産しているが、生産場が少なく、全国に出回るほどではない。JAは力を入れている。